

本県の森林・林業の現状と課題(第1章)

- 森林資源の循環利用の推進
本格的な利用期を迎えた人工林のフル活用
- 林業担い手の確保・定着
人手不足が進む中、林業担い手の確保と定着率の改善
- 県産材の利用促進
安定供給体制の整備と需要の拡大
- 県民参加の森づくりの一層の推進
全国植樹祭を契機とした県民参加の森づくりの機運の継承
- 集中豪雨などによる山地災害への対応
災害に強い森づくりや流木対策などの推進

森林・林業・木材産業の目指す方向(第2章)

森づくりの基本指針

森づくりプランに基づき、「里山林」「保全林」「生産林」「混交林」に区分し、新たな森林管理システムなどを活用した、100年先につながる多様な森づくり

目標

豊かな森づくりと魅力ある林業の構築

目指す方向

【森づくり】
水と緑に恵まれた県土を支える多様で災害に強い森づくりが進んでいること

森づくりプランに基づき、里山林の整備などの多様な森づくりや森づくりを支える人づくりが実施されるとともに、森林整備や治山施設の設置などにより、災害に強い森林が造成。

【林業・木材産業】

地域林業の担い手により、持続可能な森林経営が行われているとともに、県産材が安定的に供給され、需要拡大が図られていること

森林資源の循環利用と林業・木材産業の成長産業化に向け、新たな森林管理システムやICT等を活用したスマート林業の導入などにより**主伐面積が3倍に増加**するとともに、需給情報の共有化や需要拡大により**県産材の利用量が4割増加**。
冬期林業の普及などより**通年雇用が促進**され、林業就業者の**所得が4割増加***。
*森林組合の伐採作業の従事者を対象に県で試算

○計画のポイント「伐って、使って、植えて、育てる」
成熟期を迎えている森林資源の循環利用の推進

新・総合計画の政策

【活力14】

森林整備と林業の振興、県産材の活用促進

- ・森林資源の循環利用と生産基盤の整備
- ・県産材の安定供給体制の整備と木材の需要拡大
- ・林業事業者の経営基盤の強化と担い手の育成・確保

【未来28】

水と緑の森づくり・花と緑の地域づくり

- ・水と緑に恵まれた県土を支える多様な森づくりの推進
- ・とやまの森を支える人づくりの推進
- ・県民緑化運動の推進と花と緑のあふれる地域づくり

【安心21】

防災・減災・災害に強い県土づくり

- ・治山・治水・土砂災害対策の推進
- ・津波・高波・海岸侵食対策の推進
- ・公共施設の計画的・効率的な維持管理の推進

目標の実現に向けた推進施策(第3章)

施策の体系

森を活かす(伐って・植えて・育てる)

- 1 森林整備と森林資源の循環利用の推進**
- (1) 事業地の大規模集約化の推進
 - (2) 「生産林」の健全な育成と主伐、再造林の推進
 - (3) 優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の生産体制の整備
 - (4) 森林経営の確立に向けた生産基盤の整備
 - (5) 新たな森林管理システムの推進

2 林業担い手の確保・育成

- (1) 林業担い手センター等による担い手の確保
- (2) 富山県林業カレッジ等による担い手の育成

3 林業経営基盤の強化

- (1) 林業事業者の育成と経営基盤の強化
- (2) 農林水産公社営林の経営改善と適正な管理
- (3) 県営林の適正な管理
- (4) 特用林産物の振興

4 新たな技術開発と普及指導の推進

- (1) 林業の低コスト・省力化のための新たな技術開発の推進
- (2) 持続可能な林業経営に向けた林業普及指導の推進

木を使う(県産材等の木材の利用促進)

- 5 安定供給体制の整備**
- (1) 県産材の安定供給体制の整備
 - (2) 需要者ニーズに対応した加工体制の整備

6 需要の拡大

- (1) 住宅や公共建築物等での利用促進
- (2) 新たな需要を創出するための研究開発
- (3) 設計者等の育成、確保
- (4) 理解の増進と木育の推進

森を守る(多様な森づくり・災害に強い森づくり)

- 7 県民参加の森づくりの推進**
- (1) 里山林や混交林等の整備の推進
 - (2) 森づくりを支える県民意識の醸成
 - (3) 森林ボランティア等による森づくり活動への支援
- 8 災害に強い森づくりの推進**
- (1) 保安林の適正な管理と林地の保全
 - (2) 県民の生命・財産を守る治山事業の推進、
 - (3) 森林病虫獣害対策の推進

主な取り組み内容

- ・航空レーザー計測により詳細な森林資源情報を整備し、森林境界の画定や施業集約化に活用するほかデータ共有による需給のマッチングなど、**スマート林業**を推進
- ・森林資源の循環利用に向け、人工林の計画的な主伐と、伐採後の優良無花粉スギ「立山 森の輝き」による**再造林**を推進
- ・水源の涵養や地球温暖化の防止などを図るため、間伐等の森林整備を推進
- ・県産材を低コストで安定供給するため、路網整備や高性能林業機械の導入を支援
- ・**新たな森林管理システムの円滑な実施**に向け、「**森林経営管理総合支援センター**」を設置し、市町村による、森林経営管理を支援
- ・高校生等を対象とした**林業体験**の開催や、林業就業に関する情報発信サイト「**とやまの林業就業ナビ**」を開設し、県内外からの新規就業者を確保
- ・**冬期林業の普及**により事業者間での**労働力の融通を通じた通年雇用**を促進
- ・効率的な素材生産技術の習得など経験や役割に応じた人材を育成
- ・新たな森林管理システムの担い手となる意欲と能力のある林業経営者を育成
- ・県営林の適正な管理により計画的かつ効率的な県産材の供給を推進

- ・「**とやま県産材需給情報センター**」により、川上の供給情報と川下の需要情報の共有化を図るなど**需給マッチングの円滑化**を推進
- ・品質・性能の確かな県産材製品の供給を促進
- ・県産材を使った住宅の事例紹介や見学会などによる住宅での利用促進
- ・県産材利用のシンボルとなる公共建築物等の木造化や内装木質化を推進
- ・**県産材活用マニュアルの普及**により民間の建築物での県産材利用を促進
- ・**中大規模のCLT等**を活用した木造建築物を設計できる人材を育成

- ・地域住民との協働により地域や生活に密着した明るい里山林の整備を推進
- ・過密人工林や侵入竹林の整備により針葉樹と広葉樹が混在する混交林に誘導
- ・「**とやまの森づくりサポートセンター**」によりボランティア団体等の森づくり活動を支援
- ・**流木被害の未然防止**に向け、適切な森林整備と流木捕捉機能を備えた治山ダムの整備や溪流内での流木危険木を除去
- ・海岸林を中心とした、松くい虫被害などを適切に把握し効果的な防除を実施

主な参考指標(2016 ⇒ 2026)

- 新** 主伐面積[人工林](年間)
32ha ⇒ 100ha
- ◎無花粉スギ植栽面積(累計)
42ha ⇒ 500ha
- ◎間伐実施面積(累計)
34,784ha ⇒ 46,607ha
- 新** 森林境界画定面積(累計)
4,929ha ⇒ 12,000ha
- 新** 路網整備延長[人工林](累計)
1,818km ⇒ 2,498km
- ◎林業就業者(年間)
452人 ⇒ 450人
- 新** 林業就業者*のうち、通年雇用の割合(年間)
*森林組合の伐採作業の従事者
64% ⇒ 100%

- ◎県産材素材生産量(年間)
97千m³ ⇒ 140千m³
- ◎公共建築物等の木造率(年間)
14% ⇒ 25%以上
- 新** 公共建築物等での県産材利用実績(累計)
243棟 ⇒ 830棟

- ◎里山林の整備面積(累計)
2,628ha ⇒ 4,600ha
- ◎県民参加による森づくりの年間参加延べ人数
12,439人 ⇒ 13,000人以上
- 新** 流木被害防止対策着手数(累計)
一箇所 ⇒ 20箇所(2021年度)

人を育てる(森づくりや林業・木材産業を支える人づくり)